

教科に関する調査の設問別の分析結果

全国学力調査 平成20年度B問題

32 「文章やグラフから必要な情報を正しく読み取る」
 県52.9% 安芸太田(49.4%)

33 「読み取った情報を根拠として示しながら、自分の立場を明確にして意見を書く」
 県55.0% 安芸太田(49.4%)

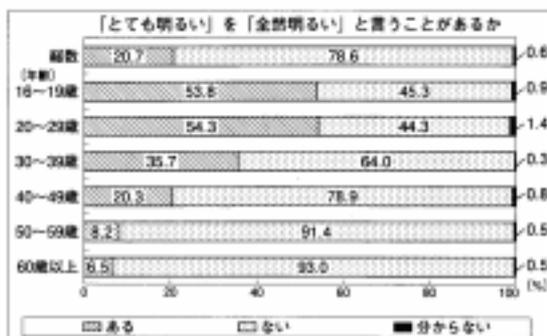
No. 2

(2) 国語に関する世論調査

インターネットで検索した結果、文化庁の「平成15年度 国語に関する世論調査」に「全然」の使い方に関するアンケートがあることが分かった。

そこで、市の図書館へ行き、「国語に関する世論調査」についての報告書を探した。「全然」に関する調査結果は、日常会話の中でそのような言い方をするところがあるかどうかを尋ねた項目の中にあった。

次のグラフは、「全然」の使い方に関するアンケートの結果である。



【出題の趣旨】

文章やグラフから必要な情報を正しく読み取ることができるかどうかをみる。

【学習指導要領の内容・領域】

C 読むこと(第1学年)

イ 文章の展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約すること。

《内容把握や要約》

カ 様々な種類の文章から必要な情報を集めるための読み方を身につけること。

《情報の活用》

33	正答率
本校	60.9
広島県	55.0

解答類型	1	2	3	4	5	6	7	左記以外	無解答
本校の割合 (%)	60.9	4.3	0.0	4.3	0.0	13.0		17.4	0.0

この問題を解くために必要な力

資料から得られる情報を吟味する力。

根拠を具体的に挙げ、自分の考えを述べる力。

根拠として挙げるものが、信頼できるものかどうか、考えを裏付けるための材料として適切かどうかといった点について検討する力。

誤答分析

選択肢2 グラフから読み取れることは、「全然明るい」という「回数」ではない。また、29歳以下の「ある」という割合はいずれも半数程度であり、若い世代の「大多数の人」が「全然明るい」という表現を使っているのが不適切である。

選択肢3 グラフの数値は正しく読み取っているものの、説明している内容は「総数」から読み取ったものであり、「世代」による違いの根拠にはならないので不適切である。

選択肢4 グラフから読み取れることは、同一人物の経年変化ではないため、「若いときには」、「年齢が高くなるにつれて」という表現は不適切である。

調査結果の分析をふまえた指導改善のポイント

【単元名】相手の意見を正確に理解したうえで、構成を工夫して意見を書こう

調査結果からみる課題

【課題となる力】

資料から得られる情報を吟味する力。
根拠を具体的に挙げ、自分の考えを述べる。
根拠として挙げるものが、信頼できるものかどうか、考えを裏付けるための材料として適切かどうかといった点について検討する力。

【指導上の課題】

根拠として挙げるものが、信頼できるものかどうか、考えを裏付けるための材料として適切かどうかを考えさせる指導が十分でなかった。
事実と意見の区別しながら読んだり書いたりさせる指導が十分でなかった。

指導改善のポイント

【指導の工夫】

ポイント1

意見文について、既習事項を振り返らせる。
(頭括型, 引用「 」, ナンバリングなど)

ポイント2

事実と意見の違いをとらえさせる。
(客観と主観, 共通と相違)

ポイント3

根拠として示すのに適切な資料かどうかを吟味させる。
(具体と抽象)

ポイント4

相手の意見を正確に理解したうえで、構成を工夫して自分の意見を書かせる。
(型の指導)

ポイント1

意見文について、既習事項を振り返らせる。(頭括型, 引用「 」, ナンバリング, 文末表現など)
意見文と作文の違いを整理し、意見文を書く目的(同意を求める文章であること)をはっきりさせる。

ポイント2

事実と意見の違いをとらえさせる。(主観と客観, 共通と相違)
根拠として挙げているものの中から、事実と意見を区別して適切なものかどうかを吟味する。
主観と客観, 共通と相違の観点で適切なもの, 説得力を持たせるために事実を述べることの重要性を教える。

ポイント3

根拠として示すのに適切な資料かどうかを吟味させる。(具体と抽象)
根拠としてあげたものを具体的に示すことによって、より説得力が増すことを教える。

ポイント4

相手の意見を正確に理解したうえで、構成を工夫して自分の意見を書かせる。(型の指導)
意見文の型に従って、相手の意見への反論を書く。
書いたものを相互評価し、相手の意見や根拠が適切かどうかについて評価・推敲する。

中学校第3学年 国語科学習指導案

単元名：相手の意見を正確に理解したうえで，構成を工夫して意見を書こう

単元について

意見を述べる時に挙げる理由は出来るだけ確かなことがよい。思ったり考えたりしたことより，見たり聞いたりしたこと，確かめられたりすることの方がよい。しかし，生徒は，ある事象を見るとき表面的なとらえや自分の主観的な判断をすることが多い。理由が確かめられるものなのか，確かめられないものなのか見分ける力をつけ，読む文章の妥当性を見抜くことや論理性のある文章を書くことに活用させたい。

また，同じ事象を見たり聞いたりしても，立場の違いや条件の違いでとらえ方や考え方が違うことを考えさせたい。そういったことを考える活動を通して，多面的思考力や複眼的思考力を育成することをねらいとする。また，他者の考えを知ることによって自分の考えは客観的なものなのか判断する力につなげたい。そのような力をつけて，説得力のある意見文を書けるようにしたい。

調査結果からみる課題

資料から得られる情報を吟味する力。

根拠を具体的に挙げ，自分の考えを述べる力。

根拠として挙げるものが，信頼できるものかどうか，考えを裏付けるための材料として適切かどうかといった点について検討する力。

【指導上の課題】

根拠として挙げるものが，信頼できるものかどうか，考えを裏付けるための材料として適切かどうかといった点について考えさせる指導が十分でなかった。

事実と意見の区別しながら読んだり書いたりさせる指導が十分でなかった。

指導改善のポイント

(1) 指導内容・指導方法について

説得力のある意見文を書く際に必要な資料から得られる情報を吟味する力をつけるために次の4つのステップを踏むようにする。

		指導内容・指導方法
一	意見文について，既習事項を振り返る。 よりよい根拠の示し方を習得する。〔本時〕	意見文について，既習事項を振り返らせる。 (頭括型，引用「 <input type="text"/> 」，ナンバリング，文末表現など) 事実と意見を区別する力と根拠として示すのに適切な資料かどうかを吟味する力をつける。(主観と客観，共通と相違，具体と抽象) 課題1「日本はレジ袋を有料義務化すべきである」
二	意見文を書く。	相手の意見を正確に理解したうえで，構成を工夫して自分の意見を書く。(型の指導) 【構成・記述】
三	相互評価をする。	書いたものを相互評価し，相手の意見や根拠が適切かどうかを評価・推敲する。 【推敲】
四	リライトする。	相互評価

単元の目標

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 書く能力	ウ 言語についての知識・理解・技能
<p>自分の意見を表現しようとする。</p> <p>自分や他の人が書いた意見文を読み、根拠が明らかな説得力のあるものにしようとする。</p>	<p>文章の形態を選択して適切な構成を工夫して書く。</p> <p>根拠として妥当性があり、考えを裏付けるための材料として適切なものを選ぶ。</p> <p>文章の内容が相手に効果的に伝わるように論理の展開を工夫する。</p> <p>書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価して自分の表現に役立てる。</p>	<p>意見文として適切な文章の展開について理解することができる。</p>

指導と評価の計画

(全 5時間)

次	学習内容(時数)	評 価				
		関	書	言		
一	<p>意見文について、既習事項を振り返る。(1)</p> <p>頭括型、引用「 」, ナンパリング、文末表現など)</p> <p>よりよい根拠の示し方を習得する。</p> <p>事実と意見を区別する力と根拠として示すのに適切な資料かどうかを吟味する力をつける。(主観と客観、共通と相違、具体と抽象)</p> <p>課題「日本はレジ袋を有料義務化すべきである。」 【本時1】</p>				<p>・自分の意見を表現しようとしている。 ア-</p> <p>・根拠として妥当性があり、考えを裏付けるための材料として適切なものを選んでいる。 イ-</p>	メモ 発言
二	<p>意見文を書く。500字程度(1)</p> <p>相手の意見を正確に理解したうえで、構成を工夫して自分の意見を書く。(型の指導)</p> <p>500字程度の意見文を書く。 【構成・記述】</p>				<p>・文章の形態を選択して適切な構成を工夫して書いている。 イ-</p> <p>・自分の意見のもととなる根拠として適切なものを選んでいる。 イ-</p> <p>・文章の内容が相手に効果的に伝わるように論理の展開を工夫している。 イ-</p>	作品
三	<p>相互評価をする。(1)</p> <p>書いたものを相互評価し、相手の意見や根拠が適切かどうかを評価・推敲する。 【推敲】</p>				<p>・書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価して、自分の表現に役立てている。 イ-</p> <p>・意見文として適切な文章の展開について理解している。 ウ-</p>	推敲シート
四	<p>リライトをする。(1)</p>				<p>・根拠が明らかな説得力のあるものにしようとしている。 ア-</p> <p>・文章の形態を選択して適切な構成を工夫して書いている。 イ-</p> <p>・文章の内容が相手に効果的に伝わるように論理の展開を工夫している。 イ-</p>	作品

本時の学習

(1) 本時の目標

説得力のある根拠には、客観性があることを知り、考えを裏付けるための材料として適切なものを選んで意見文を書くことができる。

(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準	評価方法
1 導入			
1 説得力のある根拠について考える。 ・個人で考える。 ・班で話し合い、発表する。 2 事実と感想、意見を区別する演習を行う。	二つの文を比較させ、どちらがより説得力があるかを考えさせる。 事実と意見を区別させる。主観と客観、具体と抽象に気付かせる。 説得力のある根拠とは事実に基づくものであることをとらえさせる。 日常生活の場面で、活用できる例を用いる。	説得力のある根拠には、客観性があることを理解している。	発言 ワークシート
2 展開			
説得力のある根拠を示して意見文を書こう。 テーマ「日本はレジ袋を有料義務化すべきである」			
3 前時、生徒が考えた理由を見て、反論できるものに反論する。 4 より説得力を持たせるために必要なことを考える。 5 資料プリントから、自分の意見の根拠にふさわしいデータを読み取る。 6 自分の意見を裏付ける根拠を文章で書く。 7 発表する。	客観性のないものは、すぐに反論され、説得力にかけることに気付かせるようにする。 客観性を持たせるために、データや具体的な事実が必要であることに気付かせる。 読みとれない生徒には、数値の読み取り方のヒントを与える。 早く書けたら、生徒同士で相互評価させる。 理由として、妥当かどうか確認する。	考えを裏付けるための材料として適切なものを選んで いる。	ノート
3 振り返り			
8 学習の振り返りを書く	今日のキーワードを必ず入れて、自分の言葉で書けるようにする。		

検 証

検証の方法

160～200字程度の意見文の構成を工夫して書けるか。
根拠として妥当性があり、考えを裏付けるための材料として適切なものを選んでるか。

問一 図1のグラフは、文化庁が実施した「平成十六年度国語に関する世論調査」の結果の一部で、「最近、敬語の使い方間違いが多くなってきているという指摘がありますが、あなたはそう思いますか。」という問いに対する回答結果を示したものである。このグラフでは、どちらかという敬語の使い方間違いが多くなったと答えている人は、約何%以上といえるか。

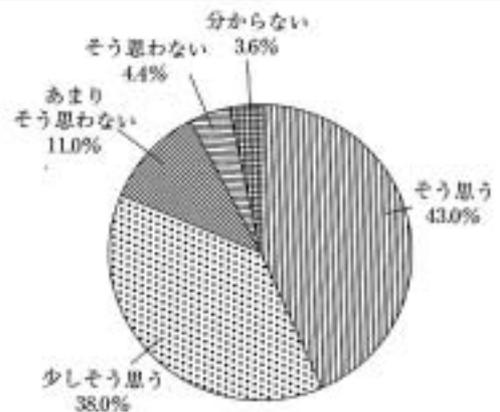
問二 この文章に書かれていることをまとめた。あてはまらないものを記号で選んで書きなさい。また、この部分が当てはまらないのか説明しなさい。

- ア その場面での正しい日本語とは、話す相手や目的、どんな場面かによって決まる。
- イ 敬語を正しく使うことと、相手によい印象を与えることは、別の話である。(植木屋さんなどの例)
- ウ 適切で、相手にいい印象を与えることができればそれが正しい日本語なのだ。
- エ 正しい日本語を話せば、相手にいい印象を与えることができる。

問三 このグラフ文章を見て「敬語を正しく使う必要があるのか？」についての意見文を、後の条件に従って書きなさい。

- 【条件】 字数 160字～200字
必要に応じた段落構成
グラフから読み取ったことと文章についてふれること。
意見と根拠がずれないようにすること。
原稿用紙の使い方を守ること。

資料1「最近、敬語の使い方間違いが多くなってきているという指摘がありますが、あなたはそう思いますか」



(文化庁「平成16年度国語に関する世論調査」による)

〔資料2〕

(金田 - 秀穂『新しい日本語の予習法』による)

検証結果

平成20年度全国学力・学習状況調査B問題3と同程度の評価問題を実施した。
〔適切な根拠を抜き出す〕

	非連続型テキストからの情報の取り出し	根拠に数値を使用している
事前	74 %	26 %
事後	61 %	74 %

生徒アンケート

(%)

	5月	9月	1月
(思考力) 物事を解決するとき、たぶんこうではないかと予想しています。 自分の考えと他の人の考えを比較しながら聞いています。	65 25	87 78	91 70
(表現力) 自分とちがう意見も受け入れながら、自分の考えを話しています。 自分の考えや意見を、具体的な例を挙げ順序に気をつけながら話しています。	35 25	74 65	83 65
学習を最後までやりとげて、うれしかったことがあります。	65	91	91

分析・考察

- ・非連続型テキストから正確に情報を取り出した生徒の割合は74%から61%に下がっているが、問い方を記号で選ぶものから記述式に変えたためと考えられる。
- ・根拠に数値を具体的に書いている生徒は、26%から74%に大幅に増えた。目的をもって様々な文章を読み、必要な情報を集めて自分の表現に役立てることができるようになった。
- ・この単元はもちろん、他の単元の学習においても、自分の考えを書く ペアや小グループで意見交流 全体交流 個人思考を繰り返し行った。伝えるために自分の考えを書き、伝え合うことによったことによって思考力と表現力の意識が高まったと考えられる。